



Takeda

2023年 ESG 指標

Better Health, Brighter Future

カテゴリー / 指標

医薬品アクセス

2020 年度 のデータ	2021 年度 のデータ	2022 年度 のデータ
-----------------	-----------------	-----------------

低中所得国および医療制度が発展中の国において、タケダがスポンサーおよび支援する臨床試験を通じて、タケダの医薬品やワクチンを受けた患者数 ¹	70,000 ²	6,430	7,369	<input checked="" type="checkbox"/>
--	---------------------	-------	-------	-------------------------------------

低中所得国・医療システムが発展途上にある国における医薬品アクセスプログラムの強化(資力ベースの患者支援プログラムに新規に登録した患者さんの数) ^{3,4}	740	983	1,366	
--	-----	-----	-------	--

低・中所得国における医薬品アクセスプログラムと医療体制強化(慈善アクセスプログラム) ⁵	143	160	189	<input checked="" type="checkbox"/>
---	-----	-----	-----	-------------------------------------

医薬品アクセスプログラムを実施している国の数 ⁶	36	39	44	<input checked="" type="checkbox"/>
-------------------------------------	----	----	----	-------------------------------------

¹ 当年度において、世界銀行の分類に基づく低所得国 (LIC)、低中所得国 (LMIC)、高中所得国 (UMIC) で、臨床試験、臨床研究、臨床共同研究に参加した患者さんです。

² 2020年度におけるQDenga(TAK-003)臨床試験参加者の増加数

³ 資力ベースの患者支援プログラムとは、特定の国および製品の組み合わせに応じてカスタマイズしたプログラムです。患者さんがこのプログラムを利用するには、資力調査を受け、医療を受ける基準を確認する必要があります。当年度中に新たに参加した患者さんは、治療を受けている患者さんとして報告されています。

⁴ これは企業理念に基づく私たちの指標 (Corporate Philosophy Metrics) の一つです (指標名: 低中所得国・医療システムが発展途上にある国における医薬品アクセスプログラムの強化)。背景、定義、計算方法については[こちら](#)をご覧ください。

⁵ 慈善アクセスプログラムは、NGOパートナーと共同で実施する体系化された無料プログラムです。

⁶ 資力ベースの患者支援プログラムを実施しており、慈善アクセスプログラムに参加中の患者さんがいる国と地域です。償還範囲の変更や新たに使用できる医薬品の登場などに応じて、患者さんのニーズは変わっていくため、国の数は前年から変動します。

独自に保証された測定値: Apex

カテゴリー / 指標

タレントマネジメント ¹	2022 年度のデータ		
採用数の合計 (総数 割合)²	12,917	26%	<input checked="" type="checkbox"/>
> 採用数の合計 - 女性の割合	8,368	33%	<input checked="" type="checkbox"/>
> 採用数の合計 - 男性の割合	4,453	19%	<input checked="" type="checkbox"/>
> 採用数の合計 - 年齢グループ 1: <30	6,088	67%	<input checked="" type="checkbox"/>
> 採用数の合計 - 年齢グループ 2: 30 - 50	5,828	19%	<input checked="" type="checkbox"/>
> 採用数の合計 - 年齢グループ 3: >50	999	10%	<input checked="" type="checkbox"/>
> 採用数の合計 - 日本	574	10%	<input checked="" type="checkbox"/>
> 採用数の合計 - U.S.	9,014	42%	<input checked="" type="checkbox"/>
> 採用数の合計 - EUCAN	1,794	12%	<input checked="" type="checkbox"/>
> 採用数の合計 - GEM	1,535	20%	<input checked="" type="checkbox"/>
> 社内公募による採用の割合	26%		
従業員の平均勤続年数	6.7		
> 従業員の平均勤続年数 - 女性の割合	5.7		
> 従業員の平均勤続年数 - 男性の割合	7.9		
グローバル 離職率³	22%		<input checked="" type="checkbox"/>
> グローバル 離職率 - 女性の割合	27%		<input checked="" type="checkbox"/>
> グローバル 離職率 - 男性の割合	15%		<input checked="" type="checkbox"/>
> グローバル 離職率 - 年齢グループ 1: <30	49%		<input checked="" type="checkbox"/>
> グローバル 離職率 - 年齢グループ 2: 30 - 50	15%		<input checked="" type="checkbox"/>
> グローバル 離職率 - 年齢グループ 3: >50	17%		<input checked="" type="checkbox"/>
> グローバル 離職率 - 日本	5%		<input checked="" type="checkbox"/>
> グローバル 離職率 - U.S.	34%		<input checked="" type="checkbox"/>
> グローバル 離職率 - EUCAN	11%		
> グローバル 離職率 - GEM	20%		<input checked="" type="checkbox"/>
グローバル 非自発的総離職率	7%		<input checked="" type="checkbox"/>
グローバル 自発的総離職率	14%		<input checked="" type="checkbox"/>

¹データ範囲は2023年3月31日現在の正社員および派遣社員を対象とし、長期休暇中の社員は除きます。

²新入社員（在職0~1年）層の割合を、各層の合計で割って算出

³グローバル離職率の合計は、期間をまたいで自発的離職率と非自発的離職率を含みます。また、四捨五入のため、これらのカテゴリーの合計が異なります。

独自に保証された測定値：Apex.

健康と安全

カテゴリー / 指標

労働災害度数率（20 万労働時間あたり）	2020 年度 のデータ	2021 年度 のデータ	2022 年度 のデータ	
労働災害度数率（休業災害および不休業災害）	0.91	1.26	1.28	<input checked="" type="checkbox"/>
休業災害度数率	0.25	0.24	0.18	<input checked="" type="checkbox"/>
死亡者数	0	0	0	<input checked="" type="checkbox"/>
死亡率	0	0	0	<input checked="" type="checkbox"/>

当社のプレゼンテーションの基盤、予測の境界に関する詳細は、[2022年度の環境指標に関する記述と注記](#)をご覧ください。

独自に保証された測定値：KPMG.

カテゴリー / 指標

	2022 年度のデータ			Assured
	男性の割合	女性の割合		
従業員-管理職 ¹	58%	42%		☑
従業員-非管理職 ²	46%	54%		☑
全従業員 ³	48%	52%		☑
	年齢グループ 1: <30	年齢グループ 2: 30 - 50	年齢グループ 3: >50	
従業員-管理職 ¹	2%	71%	27%	☑
従業員-非管理職 ²	22%	60%	18%	☑
全従業員 ³	18%	62%	20%	☑
係長レベルに占める女性従業員の割合 ⁴		42%		☑
管理職に占める女性従業員の割合 ⁵		43%		☑
収益創出機能の全管理職に占める女性の割合 ⁶		32%		☑
STEM関連職の女性割合 ⁷		44%		☑
タケダ役員に占める女性の割合		6		☑

¹管理職とは、タケダの従業員の直属の上司である従業員を指します。契約社員のみの管理者は含まれません。

²非管理職とは、従業員である直属の部下を持たない従業員、または契約社員のみを管理する従業員を指します。

³データ範囲は2023年3月31日現在の正社員および派遣社員を対象とし、長期休暇中の社員は除きます。

⁴係長レベルに占める女性の割合をその職種の従業員総数で割った値。係長レベルとは、CEOより3つ以上下のレベルの管理職を指す。

⁵管理職に占める女性の割合を役職者数で割った値。管理職とは、執行役員を含む、CEOの2つ下のレベルの管理職を指す。

⁶収益創出職に就く女性の割合を、その職務に就く従業員総数で割った値。収益創出職とは、販売に関連する職位と定義する。

⁷科学・技術・工学・数学 (STEM) 関連職の女性の割合を、その職種の従業員総数で割った値。

独自に保証された測定値 : Apex.

エンゲージメントと生涯学習

カテゴリー / 指標

	2022 年度のデータ
エンゲージメントと生涯学習	
従業員エンゲージメント ^{1,2}	82%
年間研修を受けた従業員の割合 ³	100%
知識または個人のスキルを高めるための従業員開発研修に費やしたFTEあたりの平均時間数 ⁴	32

¹従業員エンゲージメント率は、2021年からのタケダがグローバルで展開する従業員体験アンケートのエンゲージメントに関する指標を使用して算出しています。アンケート開始日（アンケートの配付対象者リストが作成された日）の3週間前にタケダに在籍していた全正社員を対象としています。臨時従業員はこの対象に含まれません。アンケートの配付対象者の数とアンケート開始日時点における人事データ上の従業員数との乖離は、この3週間の間に入社、または退職した従業員がいたことを意味します。

²これは企業理念に基づく私たちの指標（Corporate Philosophy Metrics）の一つです（指標名：従業員エンゲージメントの向上）。背景、定義、計算方法については[こちら](#)をご覧ください。

³全従業員が定められたグローバル必須研修を修了したことを意味しています。

⁴グローバルレベルでは、2021年度に、パフォーマンスマネジメントやタケダの文化に関する基礎的なコースに加え、ウェルビーイング&レジリエンス、ハイブリッドワーキング、データ&デジタルアウェアネスなどのグローバル学習体験に参加する機会が提供されました。また、事業部門やビジネスユニットレベルでは、リーダーシップ開発や機能的スキルに関する学習プログラムも提供されており、職務のニーズに応じて使い分けられています。

カテゴリー / 指標

廃棄物 (トン)	2020 年度 のデータ	2021 年度 のデータ	2022 年度 のデータ	Assured
廃棄物総発生量	87,000	87,300	85,510	☑
規制対象廃棄物総発生量	43,200	41,300	37,510	☑
非有害廃棄物総発生量	43,800	46,000	48,000	☑
廃棄物のリサイクル率	34%	37%	36%	☑
廃棄物の埋立処分率	21%	21%	22%	☑
重大な漏出と排出				
法規制違反件数	6	2	8	☑
重大な漏出の件数と量	0	0	0	☑
プロダクト・スチュワードシップ(トン) 1				
回収、再利用もしくは廃棄した製品の総量 (年間)	239	245	440	

当社のプレゼンテーションの基盤、予測の境界に関する詳細は、[2022年度の環境指標に関する記述と注記](#)をご覧ください。

¹ 武田薬品工業株式会社を含む製薬業界250社以上による家庭用医薬品およびシャープの不要品回収・廃棄の合計データ

独自に保証された測定値：KPMG.

脱炭素

カテゴリー / 指標

スコープ 1 とスコープ 2の温室効果ガス (GHG) (1000 MTCO2e)	2020 年度 のデータ	2021 年度 のデータ	2022 年度 のデータ	Assured
温室効果ガス (GHG) 総排出量 ¹	4,909	5,210	5,612	
スコープ 1 排出量	293	316	277	☑
CO2	289	302	N/A	
CH4	0	0	N/A	
N2O	0	0	N/A	
冷媒(HFCs, CFCs, HCFCs)	15	14	N/A	
スコープ 2 排出量：ロケーションベース	271	283	291	☑
スコープ 2 排出量：マーケットベース	217	178	169	☑
エネルギー (TJ)				
総エネルギー消費量	8,000	8,280	7,952	☑
購入電力 (非再生可能)	2,100	1,780	1,600	☑
購入電力 (再生可能)	836	1,300	1,490	☑
自家発電 (再生可能電力)	4	5	17	☑
電力における再生可能エネルギーの割合	30%	42%	48%	☑
グリーン電力証書 (RECs) を含む再生可能電力の割合 ²	100%	100%	In progress	
供給された温熱・冷熱	100	102	145	☑
燃料消費量	4,960	5,100	4,700	☑
スコープ 3の温室効果ガス (GHG) (1000 MTCO2e)				
スコープ 3 排出量：該当するすべてのカテゴリー	4,380	4,716	5,166	
カテゴリ1	3,710	4,070	4,060	☑
カテゴリ2	50	35	217	☑
カテゴリ4	458	341	387	☑
カテゴリ7	43	77	85	☑
カテゴリ10	6	14	1	☑
その他の該当するカテゴリー	115	179	416	☑
サプライヤーとの関わり(1000 MTCO2e)				
カテゴリ1-1, 2, 4からのスコープ3排出量 ³	N/A	N/A	4,664	
科学的根拠に基づく温室効果ガス排出削減目標を採用することを採用したサプライヤーからのスコープ3排出量[カテゴリ1-1, 2, 4]3	N/A	N/A	2,122	
カーボンニュートラル²				
購入済のカーボンクレジット (VERs) - 1000 MTCO2e	4657	5,033	In progress	☑
購入済 RECs - TJ	606,944	522,693	In progress	☑
購入済 VERs および RECs による GHG 排出量の削減	100%	100%	In progress	☑

当社のプレゼンテーションの基盤、予測の境界に関する詳細は、[2022年度の環境指標に関する記述と注記](#)をご覧ください。

¹ 温室効果ガス (GHG) 総排出量は、マーケットベースのスコープ2排出量を用いて算出。

² 再生可能エネルギー証書 (REC) および検証済み排出削減量 (VER) の調達を通じて、スコープ 1、2、3 のすべての GHG 排出量を削減します。カーボンニュートラルの検証は、2020年度のデータを対象としています。

³ 2021年度に必要なRECとVERの調達は現在進行中であり、完了した時点で独立した検証を行います。

³ 2022年度以降に新たに収集された指標

独自に保証された測定値：KPMG.

カテゴリー / 指標

水(1000 m3)	2020 年度 のデータ	2021 年度 のデータ	2022 年度 のデータ	Assured
廃棄物総発生量	10,770	11,300	10,430	☑
› 水リスクが「高から非常に高い」地域での取水量	1,180	1,090	1,707	
› 水リスクが「高から非常に高い」地域での取水量（総摂水量の%）	11%	10%	16%	
取水量¹	2,280	2,710	2,240	
› 水リスクが「高から非常に高い」地域での水消費量	174	165	264	
› 水リスクが「高から非常に高い」地域での水消費量（総消費量の%）	8%	6%	12%	
水リスクが「高い」または「極めて高い」とされる地域にある製造拠点の割合	20%	20%	34%	☑
排水量	8,490	8,580	8,190	☑
生物多様性				
護地域および/または生物多様性の主要地域に隣接した場所、において所有、リース、または管理している場所の数	N/A	29	29	
保護地域および/または生物多様性の主要地域内またはそれに隣接した場所において所有、リース、または管理しているサイトの面積（ヘクタール）	N/A	329	329	

当社のプレゼンテーションの基盤、予測の境界に関する詳細は、[2022年度の環境指標に関する記述と注記](#)をご覧ください。

¹ 水消費量は、取水量から排水量を差し引いたものを表します。

独自に保証された測定値：KPMG.

環境マネジメント

カテゴリー / 指標¹

環境マネジメントシステム	2020 年度 のデータ	2021 年度 のデータ	2022 年度 のデータ
実施された EHS 監査実施数 ²	20	24	26
ISO 14001 認証を受けている製造拠点の割合	73%	73%	77%
ISO 50001 認証を受けている製造拠点の割合	3%	3%	6%
ISO 45001 認証を受けている製造拠点の割合	53%	50%	67%

¹ 武田薬品は、環境データの報告境界のガイドラインとして、業務管理を選択しており、その内容は以下のとおりです。

- 総エネルギー使用量、スコープ1およびスコープ2のGHG排出量については、タケダの全製造拠点、研究開発拠点、米国およびヨーロッパの血漿採取センター、タケダ本社および商業オフィスがタケダの事業活動の範囲として含まれています。
- その他の環境パフォーマンス指標については、タケダの全製造拠点、研究開発拠点、米国・欧州の血漿採取センター、およびデータが入手可能な大規模商業施設を事業活動の範囲としています。小規模な事業所からの貢献は含まれていません。

² EHS 監査には、コーポレート EHS が管理する内部および外部の第三者監査が含まれます。

カテゴリー / 指標

エシックス&コンプライアンス

	2021年度 のデータ	2022年度 のデータ	Assured
タケダの腐敗防止に関する方針および手順に関する研修を受けた従業員の割合¹	100%	98%	☑
▶ タケダの腐敗防止に関する方針および手順に関する研修を受けた従業員の割合 - 日本 ¹	100%	99%	☑
▶ タケダの腐敗防止に関する方針および手順に関する研修を受けた従業員の割合 - U.S. ¹	100%	100%	☑
▶ タケダの腐敗防止に関する方針および手順に関する研修を受けた従業員の割合 - EUCAN ¹	100%	99%	☑
▶ タケダの腐敗防止に関する方針および手順に関する研修を受けた従業員の割合 - GEM ¹	100%	99%	☑
タケダの行動基準に関する研修を受けた従業員の割合¹	97%	98%	
▶ タケダの行動基準に関する研修を受けた従業員の割合 - 日本 ¹	98%	98%	
▶ タケダの行動基準に関する研修を受けた従業員の割合 - U.S. ¹	96%	100%	
▶ タケダの行動基準に関する研修を受けた従業員の割合 - EUCAN ¹	97%	98%	
▶ タケダの行動基準に関する研修を受けた従業員の割合 - GEM ¹	98%	99%	
当該年度に確認された、過年度の汚職事件の総件数	1	1	☑
▶ Total number of incidents of corruption confirmed during the year, related to year	1	0	☑
年間の差別およびハラスメント事例の総件数	28	19	
労働法違反および雇用差別に関連する法的手続きの結果としての金銭的損失の合計額 (百万円)	235.5	3,985.7	☑
認可されたジェネリック医薬品の市場投入を遅らせるための支払いを伴う医薬品簡略承認申請(ANDA)訴訟の和解件数²	0	0	☑
発展途上国での臨床試験に関連する法的手続きによる損失総額 (百万円)	0	0	☑
虚偽のマーケティング活動に関する法的手続きに起因する損失総額 (百万円)	0	0	☑
汚職・贈収賄に関連する法的手続きによる損失総額 (百万円)	0	0	☑
詐欺、インサイダー取引、反トラスト、反競争、市場操作、不正行為、またはその他の関連法規の違反に関連する法的手続きによる損失総額 (百万円)	203.3	0	☑
経済的開示			
過去 5 年間に販売された製品ラインの総売上高に占める割合 ³	4.2%	5.8%	
品質管理			
2021年度クラスI自主回収 ⁴	0	0	☑
2021年度クラスII自主回収 ⁴	0	0	☑
サプライチェーン			
製薬業界サプライチェーンイニシアチブ (PSCI) のサステナビリティ現地監査の実施数	5	6	☑
EcoVadisによるデスクトップでのサステナビリティ監査の実施数 ⁵	N/A	317	☑
監査を受けた取引先のうち、少なくとも当会計期間中に自社の是正措置計画を実行した取引先の数 ⁵	N/A	67	☑
グローバルで展開する企業の社会的責任 (CSR)			
2016年の開始以降の長期フィランソピー活動への投資総額 (単位: 十億円)	16.2	19.7	
公共政策への取り組み			
米国、EU諸国、日本6,7でのロビー活動や利益代弁などに関する費用総額 (単位: 百万円)	659.8	855.3	
米国、EU諸国、日本6における業界団体の会費総額 (単位: 百万円)	3,782.9	3,858.1	
米国、EU諸国8、日本6における政治資金団体への寄付総額 (単位: 百万円)	36.6	47.3	

¹ トレーニングを受けた従業員の割合は、世界の全タケダ従業員を対象に計算しています。地域ごとの内訳は、各地域のビジネスユニットの従業員に基づくもので、ここにはグローバルビジネスユニットやグローバル機能部門の従業員は含まれていません。

² 武田薬品工業株式会社は、ANDA 申請者との間で、ANDA 申請者が製品発売を遅らせる見返りとして、ANDA 申請者に金銭を支払う、いわゆる「Pay for delay」和解や、ANDA 申請者が製品を発売した後一定期間、当社ブランドのオーソライズドジェネリック医薬品を発売しない合意をしたことはありません。

³ 過去 5 年間に商業化され医薬品の収益貢献度として定義されるタケダの Vitality Index は2023年 3 月期に 5.8% (前年4.2%) となります。これには、遺伝性血管性浮腫発作抑制薬である TAKHZYRO や非小細胞肺癌がん治療薬 ALUNBRIG など、希少疾患やがん治療薬のポートフォリオが大きく貢献しています。この指標の詳細については、WEF Index Table の「Vitality Index」をご覧ください。

⁴ このデータの範囲は米国のみであり、強制回収と自主回収の両方が含まれています。過去の製品リコールは、で確認できます。

⁵ 2022年度以降に新た収集された指標

⁶ 2022年度の売上高の85.5%は、米国、欧州連合諸国および日本が占めています。通貨換算および売上高比率は、タケダの2021年度第4四半期決算発表時の数値 (1USD=135円、1EUR=141円) に基づき算出しました。2021年度の売上高の87.2%は、米国、欧州連合諸国および日本が占めています。通貨換算および売上高比率は、タケダの2021年度第4四半期決算発表時の数値 (1USD=112円、1EUR=131円) に基づき算出しました。

⁷ 2021年度のデータには、EU透明性登録簿が適用されるブリュッセル事務所経費の50%が除外が含まれ、2022年度には適用されていません。

⁸ 汎欧州の業界団体の会費のみ。

独自に保証された測定値: Apex.